第5章　わたしたちがつくるまち　かわさき

1 平和

川崎にも広がる戦争



川崎大空襲で川崎市は、どのような被害を受けたのかな。

▲空襲を受けた川崎駅近くの様子

戦争が激しくなると、川崎市も攻撃を受けるようになりました。1945（昭和20）年４月15日に、川崎市は200機あまりのB29による大規模な爆撃を受けました。川崎市が空襲で出した死者約1,000人と、負傷者約15,000人の大半は、この日の空襲によるものとみられています。



▲空襲被災地



▲B29爆撃機

▲軍需に関連した工場の分布図（『川崎市史』より）

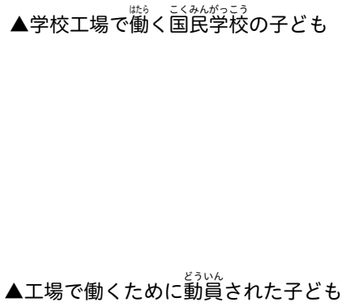


どうして川崎市の南の方を中心に爆弾が落とされたのかな。２つの地図を関連付けて考えてみよう。

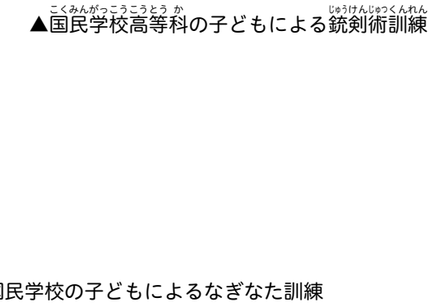
地図にはのっていない川崎市の北の方には、戦争の被害がなかったのかな。



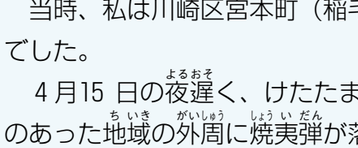
戦争と川崎の子ども



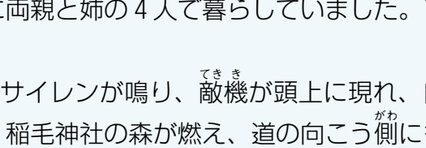
▲学校工場で働く国民学校の子ども



▲国民学校高等科の子どもによる銃剣術訓練



▲工場で働くために動員された子ども



▲国民学校の子どもによるなぎなた訓練

川崎大空襲を15才で経験したOさんのお話から

当時、私は川崎区宮本町（稲毛神社の近く）に両親と姉の４人で暮らしていました。15才でした。

４月15日の夜遅く、けたたましく空襲警報のサイレンが鳴り、敵機が頭上に現れ、自宅のあった地域の外周に焼夷弾が落とされました。稲毛神社の森が燃え、道の向こう側にも火の手が延び、我が家にも炎がふきこみ、逃げ出すこととなりました。

目の前では、両側から噴き出してくる火炎が道の中央でせめぎ合っています。進もうとしても火炎の中を通らなければいけません。失敗すれば焼死。逃げ出す時、自転車にリヤカーを付け、家財道具を乗せていました。そこに母と姉を乗せ、父が自転車を引き、私がリヤカーを押すこととなりました。

「いいか、何がなんでも離れるな。つかれたらリヤカーにしがみついていろ。引きずっていくから。」

父の言葉にはげまされて、火炎の中に突入しました。熱いと言っている余裕はありません。目をつぶって前進し、何とか火炎地獄を抜け出しました。

明け方、家にもどりましたが、何もかも焼けてしまいました。写真も衣服も食料も、何も持ち出せませんでした。

（『戦後70年 川崎を伝える 体験談』を参照）

疎開

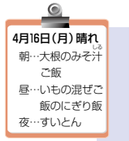
空襲が激しくなってくると、被害を避けるために川崎の中心部の小学生たちは、向丘や柿生、伊勢原や大山方面の小学校やお寺に集団で出発しました。これを学童疎開といいます。

3年生以上の児童は、集団で親元を離れ共同生活をしました。草刈りをしたり、なわづくりをしたりしました。また、食べ物はそまつなものが多く、今の小学校からは想像ができないほどの生活ぶりでした。

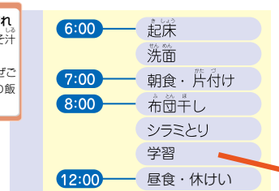


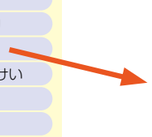


▲伊勢原市と大山の位置


4月16日(月) 晴れ
朝…大根のみそ汁
ご飯
昼…いもの混ぜご飯
飯のにぎり飯
夜…すいとん

▲疎開が始まったころの食事の様子




▲学童疎開先での授業風景

▲まきを集める子どもたち

戦況が悪化し、川崎空襲の後になると、食糧不足はますます深刻になりました。配給の食料も届かないことがあり、米はほとんど口に入らず、いもだけの代用食ですませる食事。ゆでてもゆでてもガリガリと固いじゃがいもに黒っぽい岩塩をつけて食べました。朝昼晩とおかずはきゅうりだけという日もありました。

（『輝け杉の子』より）

疎開を体験した人のお話

9時になると就寝時間。布団をしき「お父さん、お母さん、おやすみなさい。」と川崎の方を向いてあいさつして休みました。布団に入ると家のことを思い出し、ひそかに涙を流す子が大勢いました。父母が会いに来る日を何よりの楽しみに、小さいながらもがまんにがまんをして生活した毎日でした。両親のもとをはなれて暮らすだけでもやりきれないのに、疎開先でも「警戒警報」や「空襲警報」が出され、危険と不安におびやかされることが多くなりました。

（『輝け杉の子』より）

戦争時代を伝える建物

戦争の時代に使われていた場所や、跡地が今でも残っています。自分たちの住む地域にも戦争にかかわるものがないか調べてみましょう。






①登戸研究所資料館
旧陸軍登戸研究所の研究施設を活用し、つくられました。


②学童疎開先の長念寺
川崎区の小学校の疎開先として利用されていました。


③学童疎開先の王禅寺
川崎区の小学校の疎開先として利用されていました。


④陸軍軍用地境界標
陸軍の部隊が置かれた場所の境を示しています。


⑤夢見ヶ崎公園内の慰霊塔
戦争で亡くなった方の霊をなぐさめる塔です。


⑥市役所の時計台
戦争中は迷彩色に塗られ、空襲の監視塔として利用されていました。(2025年撮影)

明治大学平和教育登戸研究所資料館

2010（平成22）年3月29日に明治大学平和教育登戸研究所資料館が開館しました。この建物は、旧登戸研究所の研究施設をそのまま保存活用したものです。登戸研究所は旧日本陸軍の兵器開発のための研究所でした。

戦後、1950（昭和25）年に明治大学が登戸研究所の跡地と施設を購入し、2009（平成21）年までは農学部の研究室として使われていました。しかし、明治大学は戦争について後世に伝えていき、戦争と平和を考える場として資料館とすることにしました。



●明治大学平和教育登戸研究所資料館
川崎市多摩区東三田1-1-1
明治大学生田キャンパス
TEL.044-934-7993
小田急生田駅より徒歩15分

平和な社会を目ざして



川崎市平和館は、どんなところなのだろう。



川崎市平和館のホームページ

川崎市平和館館長さんのお話

平和館は、戦争をはじめとして貧困や差別、環境破壊など、さまざまな平和をこわすことがらについて理解を深め、戦争の悲惨さや平和の尊さを知ってもらうためにできた施設です。世界中には戦争や貧困などが原因で、学校に行きたくても行けない子どもたちもたくさんいます。平和館の展示や行事が、平和な社会を実現するにはどうすればよいのか、そのために自分に何ができるのかを考えるきっかけになってくれればと思います。

川崎と戦争の展示

川崎と戦争の関わりについて解説する展示がたくさんあります。1945（昭和20）年４月15日夜にあった川崎大空襲の様子を空襲体験者の証言を交えて記録した動画や、部屋の模型を使った戦時中の市民生活の解説、実物大の焼夷弾の模型など、戦争に関する様々な資料が展示されています。



▲頭上から焼夷弾が落ちてくる様子を表した展示



▲焼夷弾の模型の展示



▲戦時中の市民生活の展示

平和への取り組みを伝える展示

みなさんは、平和ではない状態と聞くと、戦争をしていることを思い浮かべるのではないでしょうか。しかし、平和の障害となるものは、戦争だけではありません。人権・飢餓・貧困・環境などの問題も、平和の障害となります。平和館では、そうした問題についての理解を深め、平和に関する認識を深めることのできる展示もされています。



▲拉致問題に関する展示



▲貧困問題に関する展示



▲人権問題に関する展示

川崎市平和館では、川崎大空襲に関連するパネルや、原爆パネルを展示することで、戦争や原爆の悲惨さを訴え、たくさんの方に平和について考えてもらうことを目的として、様々なイベントを企画しています。

戦後80年という節目の年である2025（令和７）年には、広島・長崎の原爆関連の写真（東京大学大学院渡邉英徳研究室がカラー化したもの）や、広島の高校生と被爆者との共同制作による「原爆の絵」などのパネル約60点を展示しました。



◀巡回展（東海道かわさき宿交流館）



▲特別展（沖縄戦の展示物）



▲中学生・高校生の平和教育の取り組み



▲原爆展の様子

川崎市核兵器廃絶平和都市宣言

川崎市は、わが国の非核三原則が完全に実施されることを願い、すべての核保有国に対し、核兵器の廃絶と軍縮を求め、（中略）ここに核兵器廃絶平和都市となることを宣言する。

◀平和都市宣言の全文を見られるよ



▲平和都市宣言のモニュメント（中原平和公園）



川崎市の各区役所には川崎市核兵器廃絶平和都市宣言を記念して、平和を願うモニュメントが建てられているよ。



多摩区



麻生区



宮前区



高津区



中原区



幸 区



川崎区



過去の歴史について理解することは大切なことだね。これからの発展についてどんなことを考えていけばよいのだろう。

2 環境

地球温暖化問題への取り組み

なぜ、川崎市は水素に注目しているのかな？



川崎市は、次世代エネルギー「水素」に注目しています。川崎市は大都市の中で、二酸化炭素の排出量が多い都市です。川崎市が排出しているうちの約75%は、化学・石油・鉄鋼など産業系から出されており、産業から脱炭素を進めていくことがとても重要です。また、臨海部周辺に水素の研究・製造・開発を行っている企業がたくさんあり、市と企業が連携して、うまく水素を活用しようとしています。



▲水素ハイブリット電車「HYBARI（ヒバリ）」



▲燃料電池自動車（水素による発電で走行）

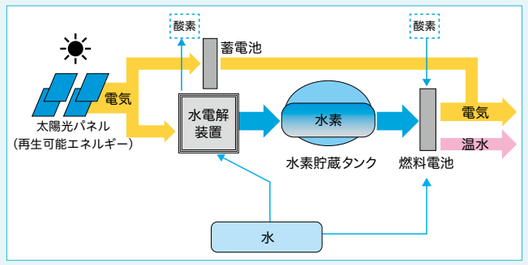
市では、2030年度までに、市役所にあるすべての乗用車を燃料電池自動車や電気自動車などの次世代自動車に転換することを目ざしています。水素社会の実現に向けて、川崎市はこれからも取り組みを続けていきます。



みんなが利用する駅でも水素が使われ始めています。

ＪＲ東日本は、2017年にＪＲ南武線武蔵溝ノ口駅を、水素を活用したエコステモデル駅に整備しました。駅舎屋上の太陽光パネルによる発電で水から水素をつくり貯蔵します。ためた水素は、燃料電池を利用して電気と温水に変えることができる仕組みとなっています。





▲水素発電の仕組み



発電時に出る水は、夏にはドライミスト、冬にはウォームベンチに活用されています。
また災害時の一時滞在場所としても利用できます。

川崎市環境総合研究所

私たちのくらしに関わる環境について調べてくれているんだね。





環境総合研究所では、大気や水などの調査研究や、地球温暖化による気候変動の影響などに関する調査研究を行っています。また、民間企業や国内外の都市などと連携して様々な環境課題の解決に向けて取り組んでいます。

大気に関する調査研究

市内18か所の測定局で、大気の状態を24時間365日測定し結果をホームページなどで公開しています。また、光化学スモッグの発生原因なども調べています。





水に関する調査研究

川や海の水質や、水中にすんでいる生物の種類や数の調査を行っています。また、工場から出る排水に対して、水質調査を行っています。







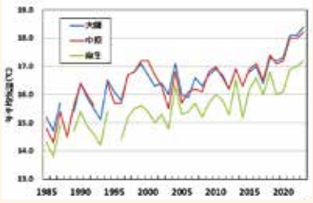
気候変動の影響などに関する調査研究

地球温暖化による気温上昇等に関するデータの収集・解析・研究などを行っています。

白い服を選ぶことで、暑さをやわらげることができるんだね！

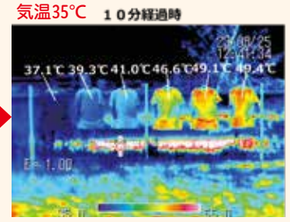


川崎市内の気温の変化



「川崎市気候変動レポート」2023から作成





暑い日に服の色によって表面温度がどれくらい変わるかをサーモグラフィーで調べる実験

川崎市デジタルアーカイブかわさき環境100年史

昔の写真をデジタル化し、環境の歴史を振り返ることができるアーカイブサイトです。





昔の川崎市の様子はどうだったのかな？



環境を守り、そして未来へ

脱炭素社会の実現に向けて、川崎市では2020（令和２）年に脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定するとともに、2022（令和４）年３月に「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」を改定しました。

気候変動の影響は遠い未来の話ではなく、今まさに私たちの生活に大きな影響をあたえており、世界全体で危機的な状況です。本市でも、令和元年東日本台風（台風第19号）では浸水等による多大な被害が発生するなど、気候変動は差しせまった課題であり、気候変動の影響をおさえるには、2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロの達成が必要です。





川崎市には日本の産業を支えている京浜工業地帯があり、他都市に比べて二酸化炭素排出量が多いけど、かつて深刻な公害問題を克服してきた時の高度な環境技術・エネルギー有効活用のノウハウを生かして、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいるんだね。



二酸化炭素排出量を削減するために、一人一人ができる取り組み

① エアコンを使う時の室温は、夏は28℃、冬は20℃を目安にしましょう。



② テレビを見ない時は消しましょう。



③ 照明は、電球型LEDランプに取りかえましょう。



④ 冷蔵庫にものをつめこみ過ぎないようにしましょう。



⑤ トイレを使わないときは、温水洗浄便座のふたは閉めましょう。



⑥ お風呂でシャワーを不必要に流したままにしないようにしましょう。



⑦ パソコンを使わない時は、電源を切りましょう。





川崎市には、地球温暖化や太陽光発電などの再生可能エネルギーについて学ぶことができる「かわさきエコ暮らし未来館」があります。一人一人が地球温暖化などについて学んでいくことが大切です。

「大規模太陽光発電所（メガソーラー）」と「かわさきエコ暮らし未来館」



▲浮島太陽光発電所





▲扇島太陽光発電所



▲かわさきエコ暮らし未来館

地球温暖化のことだけでなく、太陽光発電などの再生可能エネルギー、ごみなどの資源循環について学ぶこともできる施設になっています。



▲資源循環チャレンジゾーン



▲地球温暖化チャレンジゾーン



▲環境教室

川崎環境ポータルサイト「子ども環境資料室」➡

川崎市は2019（令和元）年に「SDGs未来都市」に選定されました。川崎市はSDGs未来都市として持続可能な社会を目ざしています。



●かわさきエコ暮らし未来館
川崎市川崎区浮島町509番－１
浮島処理センター内　TEL.044-223-8869
臨港バス03系統浮島バスターミナル下車

3 共生

市民のふれ合い



川崎市では、市民どうしがふれ合ったり、自然とふれ合ったりできるようにするために、どのようなことをしているのかな。



▲かわさき市民祭りの様子



▲区民祭の様子

▲黒川青少年野外活動センターでの活動

1978（昭和53）年に、市内に住むたくさんの人たちが「市民のお祭りをしたい」という願いを出しました。それを受けて川崎市では、毎年川崎区の富士見公園を中心にお祭りを開いています。各区のお祭りである「区民祭」もこのころから行われるようになりました。

また、市内に残る貴重な自然とふれ合うことができる黒川地区には「黒川青少年野外活動センター」があります。ここではたき火やアウトドア活動クなどができます。長野県には「八ヶ岳少年自然の家」があります。川崎市民が自然とふれ合えるようにしています。川崎市内の小学５年生、中学１年生が参加する自然教室もここで行われています。

2011（平成23）年には川崎市多摩スポーツセンターが開館しました。市民の健康増進とふれ合いの場として利用されています。



▲八ヶ岳少年自然の家



▲八ヶ岳自然教室の様子



▲川崎市多摩スポーツセンター

だれもが幸せに生きるために



「だれもが」ってどんな人たちのことだろう？

お年寄りや障がいのある人のことかな？



子どもにやさしいまちづくり

2001（平成13）年４月に川崎市は、「川崎市子どもの権利に関する条例」（子どもの権利条例）がスタートしました。全国で初めて子どもの権利を保障する子どもを一人の人間として尊重し、自分らしく生きていくことを支えていこうという願いがこめられています。

子どもの権利条例の７つの柱

1. 安心して生きる権利
2. ありのままの自分でいる権利
3. 自分を守り、守られる権利
4. 自分を豊かにし、力づけられる権利
5. 自分で決める権利
6. 参加する権利
7. 個別の必要に応じて支援を受ける権利







川崎市子ども夢パークは、2003（平成15）年に高津区の津田山駅近くに作られました。

ここでは、月２回「子ども会議」を開いています。子どもの権利や川崎市のまちづくりについて話し合い、市長に提言します。みなさんの地域でも小・中学校の代表者が集まって学校生活などについて会議をしています。



川崎市子ども夢パーク　所長さんのお話

ここは自分の責任で自由に遊び、ありのままの自分でいられる場を目ざしてつくられました。たき火や工具の使用、水遊びなどができるプレーパーク（冒険遊び場）や全天候型スポーツ広場、音楽スタジオなどさまざまな施設があります。また、多様に育ち学ぶ場として「フリースペースえん」があります。「やってみたい」がいっぱいある場所です。いつでもスタッフが待っています。ぜひみなさん遊びに来てください。

●川崎市子ども夢パーク

川崎市高津区下作延５-30-１
TEL.044-811-2001
JR津田山駅より徒歩５分
開園時間
　午前９時～午後９時
利用料　無料

子ども夢パークのホームページ ➡

人にやさしい福祉のまちづくり

川崎市は1998（平成10）年に「川崎市福祉のまちづくり条例」という決まりをつくりました。すべての人が安心して暮らせるまちづくりを目ざし、新しい施設をつくるときは、スロープや手すりを設置することなどを決めました。2009（平成21）年には条例を改正して、対象となる施設の範囲を広げました。今もなお、すべての市民が、快適に暮らすことができることを目ざしています。



▲JR中野島駅のホームスロープ





▲学校にあるスロープ・点字ブロック





▲上：ノンステップバス　下：車いす用座席



▲エレベーター付きの歩道橋



足の不自由な方や外国人の方、お年寄りの方などさまざまな人たちが住みやすい町になるように、身の周りにはさまざまな工夫があるんですね。みなさんの町にある工夫を探してみましょう。

自立と共生のまちづくり

川崎市は、障がいがある人もない人も、お互いを尊重しながらともに支え合う社会を目ざして、1997（平成９）年「かわさきノーマライゼーションプラン」を決めました。地域で生活するために必要なサービスや医療、リハビリテーションなどを受けやすくしています。





▲障がい者スポーツ大会の様子

2016（平成28）年には「かわさきパラムーブメント」を掲げ、だれもが暮らしやすいまちづくりに向けた取り組みを進めています。この取り組みを市民の方に知ってもらうために、障害のあるなしや年齢、国籍などに関わらず誰もが一緒に楽しめるイベントを行っています。





▲インクルーシブ音楽プロジェクト「いろいろねいろ」　写真右：金子愛帆



▲当たり前って何だろうを問う
プログラム「バリアフルレストラン」

めざせ！やさしさ日本代表！
かわさきパラムーブメント

▲かわさきパラムーブメントのロゴマーク



「パ」のマーク、ぼくたちのまちのどこにあるだろう？探しに行ってみよう！

みんな楽しそうだね。だれもが楽しめるってだいじだね。



かわさき
パラムーブメント ➡

多文化共生のまちづくり

1994（平成６）年に、国際交流を通して、お互いを理解し合う場として中原区に川崎市国際交流センターができました。ここには、川崎市と姉妹・友好都市の関係を結んだ各都市を紹介するパネルや、関係を結んだ時の公文書、郷土品が展示されています。他にも図書資料室、会議室、茶室などがあります。

年	人数
1980年	10054人
2000年	22365人
2020年	46408人
2025年	57355人

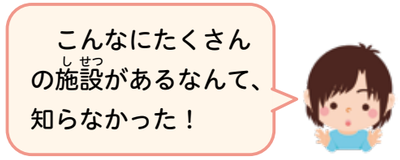
▲川崎市に住んでいる外国人の人口

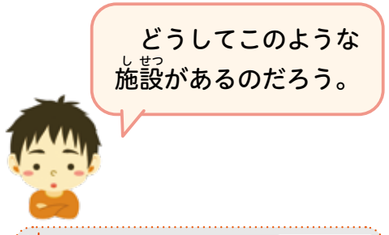
1996（平成８）年には、全国初の「川崎市外国人市民代表者会議」を開きました。ともに生きる社会を目ざすために、さまざまな文化を認め、外国人市民の意見を市政に反映させるために、国際交流のあり方等について話し合っています。

国際交流センター館長さんのお話

ここは、川崎市の国際交流の多文化理解の拠点となる場所です。外国の言語、食事、舞踊などの講習会や体験会を開催したり、日本の文化を体験してもらったりすることで、お互いの文化交流を行っています。その他にも、市内で生活している外国人のための日本語教室や、外国につながる小・中学生の学習支援の教室などを行っています。

年に一度のインターナショナルフェスティバルは、いちばん大きなお祭りです。ぜひ、地域の多くの方に国際交流センターに来ていただけたらうれしいです。





国際交流センター
ホームページ ➡

川崎市ふれあい館の取り組み

1988（昭和63）年、日本人と韓国・朝鮮人を主とする在日外国人が、市民としての相互のふれあいをすすめ、互いの歴史や文化を理解し、ともに生きる地域社会を目ざして川崎区桜本につくられました。ふれあい館には、子どもからお年寄りまではば広い世代の人々が利用しに来ます。居場所としての利用や、韓国文化にふれるイベントの開催など、人と人とをつなぐ場所としての役割があります。











これは、「チャンゴクラブ」の子どもたちが１年に一度桜本商店街のお祭りで韓国の伝統芸能チャンゴをひろうしています。他にも、近隣の小学校に訪問して、外国文化にふれる活動なども行っています。



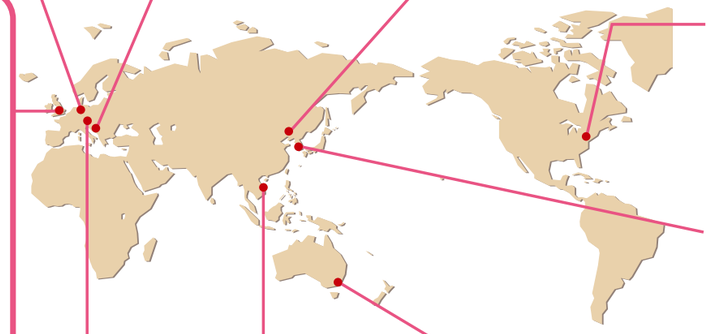
ふれあい館　館長さんのお話

地域では、さまざまな国の文化を背景としてもっている人たちが暮らしています。一人一人や人それぞれの違いも大切にしています。あらゆる人々が足を運び、出会いつながれる場所。そしてこのふれあい館が、互いを認め合い受け入れる場としてあり続けることが使命であると思っています。



ふれあい館
ホームページ ➡

姉妹・友好都市



友好都市
ドイツ
リューベック市（1992 年）


© Lübeck und Travemünde Marketing GmbH

かつては「バルト海の女王」とうたわれたドイツ北部の港湾都市です。川と運河に囲まれた旧市街の街並みは世界遺産となっています。人口約 22 万人。

友好都市
イギリス
シェフィールド市（1990 年）


© Marketing Sheffield

イギリス中部にある緑地帯で囲まれた環境先進都市・工業都市です。ボルダリングなどスポーツも盛んです。人口約 56 万人。

友好都市
オーストリア
ザルツブルグ市（1992 年）



欧州の交易路の中心として栄えた街で、歴史的建造物が多くある旧市街は世界遺産となっています。モーツァルトの生誕地です。人口約 16 万人。

姉妹都市
クロアチア
リエカ市（1977 年）



アドリア海に面するクロアチア有数の港湾都市です。石油化学、造船などで有名な産業拠点であり、2020 年の欧州文化首都となった文化・観光都市です。人口約 11 万人。

友好港
ベトナム
ダナン港（1994 年）



ベトナム中部最大の港湾であり、国際貿易における重要な拠点として発展を続けています。ダナン港のあるダナン市の人口は約 127 万人。

友好都市
中国
瀋陽市（1981 年）



中国東北地方最大の都市で自動車産業など工業が盛んです。世界遺産の瀋陽故宮をはじめ多くの名所旧跡があります。人口約 924 万人。

姉妹都市
アメリカ
ボルチモア市（1979 年）



ワシントン D.C. 近郊に位置する港湾都市です。合衆国国歌の歌詞が生まれた地としても知られています。人口約 57 万人。

友好都市
韓国
富川市（1996 年）



ソウル市と国際空港のある仁川市の間に位置する大都市です。漫画、アニメ、映画など映像文化産業に力を入れています。人口約 79 万人。

姉妹都市
オーストラリア
ウーロンゴン市（1988 年）



シドニーの南にある鉄鋼業を中心とする港湾都市です。多くのビーチがあり、サイクリングなどのスポーツも盛んです。人口約 21 万人。

川崎市は世界の都市と交流しています。どんなところと交流しているのかな。



それぞれの都市の様子が違っているね。
人々の生活の様子も川崎市とは違うのかな。



教育、文化、経済、環境分野、市民交流などさまざまな分野での国際交流を行うことを目的として提携した都市を姉妹都市・友好都市といいます。



2030年、あなたは何をしている？

みなさんは、2030年に何才になりますか。

2030年はいったい何の年でしょう。

それは……。SDGsのゴールの年です。

今、地球では貧困、紛争、気候変動など、これまでになかったような数多くの課題があります。

Sustainable Development Goals
（持続可能な開発目標）17のゴール



このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そこで2015年、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、2030年までに達成すべき目標を国連で決めました。

SDGsと聞くと「なんだか難しそう。」「子どもの私たちが何かできるの？」と思っていませんか。いいえ、あなたたちだからこそできるのです。今、世界中で17の目標に向かってさまざまな取り組みが行われています。川崎市も、さまざまな課題を市民・事業者などと解決していこうとしている取り組みが国から評価され、2019年に「SDGs未来都市」に選定されました。

川崎市SDGs登録・認証制度「かわさきSDGsパートナー」

「かわさきSDGsパートナー」は、SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体を川崎市が登録・認証する制度です。

2021年3月から始まり、約3500者（2025年現在）の企業・団体が活動しています。

かわさきSDGsパートナーの取り組み「かわさきSDGsポータルサイト」➡

KAWASAKI SDGs
川崎市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



この他にもたくさんの取り組みがあります。どんな取り組みがあるのか調べてみましょう。

未来の世界をより良くしていくために、あなたはどんなことができるでしょう？

◎SDGsの17の目標の中から「いま」気になる物を1つ選びましょう。

目標	どんな内容？

その目標が気になった理由

◎選んだ目標を達成するために、自分にできそうな取り組みはどんなことでしょうか。



まずは自分たちの身の周りのことから取り組めそうなことを考えてみよう。

私たちの未来は、私たちがつくっていかなくてはいけないね。



それぞれの学年で学んだことをふり返りましょう

○副読本『かわさき』を通して学んだこと、考えたこと、もっと知りたいことなどをふり返り、これからの自分に生かしていきましょう。

3年生

自分たちのまち川崎市についてどんなことを学んだかな？



4年生

昔の人の努力や工夫、自然災害への対応などについて、どんなことを考えたかな。



5年生

日本をリードする産業がたくさんある川崎市、これからどうなっていくのかな。



6年生

これから先も「最幸のまち川崎」であり続けるために、どんなことが自分にできるかな。

